

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。
 ※ただし、4月17日に調査を実施していない学校については、4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

集計結果

対象児童数	東松山市立松山第二小学校 53
-------	--------------------

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			松山第二小学校	
全体			14	64
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	69.8
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	60.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	81.1
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.3
		B 書くこと	3	66.0
		C 読むこと	4	57.1
評価の観点	知識・技能	4	70.3	
	思考・判断・表現	10	61.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	9	65.6	
	短答式	3	72.3	
	記述式	2	43.4	

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			松山第二小学校		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	
			(1)	(2)	(3)	A	B	C									
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる					5・6 ア				○		○			50.9	0.0
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6 イ							○		○			60.4	0.0
1三 (1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Aのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる					5・6 エ				○		○			66.0	0.0
1三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Bのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる					5・6 エ				○		○			69.8	0.0
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる					3・4 イ				○		○			62.3	0.0
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 エ				○		○			92.5	0.0
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 ウ				○			○		43.4	11.3
2四ア	【ちらし】の下線部Aを、漢字を使って書き直す(2のみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる					5・6 エ				○		○			77.4	9.4
2四イ	【ちらし】の下線部Bを、漢字を使って書き直す(あついで)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる					5・6 エ				○		○			62.3	7.5
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる					5・6 ウ				○		○			81.1	0.0
3二 (1)	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる							1・2 ア		○		○			77.4	1.9
3二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄Bに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる							5・6 ア		○		○			66.0	3.8
3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる							5・6 ウ		○		○			41.5	3.8
3三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる							5・6 ウ		○		○			43.4	26.4

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。
 ※ただし、4月17日に調査を実施していない学校については、4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

集計結果

対象児童数	東松山市立松山第二小学校 53
-------	--------------------

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)
			松山第二小学校
全体			16 51
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	57.3
	B 図形	4	44.3
	C 測定	2	50.9
	C 変化と関係	3	48.4
	D データの活用	5	60.0
評価の観点	知識・技能	9	58.5
	思考・判断・表現	7	40.4
	主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式	選択式	6	59.1
	短答式	6	56.9
	記述式	4	28.3

(注)「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			松山第二小学校		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	
1(1)	2022年の全国のプロックリーの出荷量が2002年の全国のプロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) 7(7)				3(1) 7(7)	○			○				81.1	0.0
1(2)	都道府県Aのプロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) 7(7) 5(1) 7(7) 4(7)	○				○			32.1	1.9
1(3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(1) 7(7)	○			○				62.3	5.7
1(4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とプロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) 7(7) 4(7)					○			○				67.9	3.8
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる		4(1) 7(7)				○			○				45.3	1.9
2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) 7(7)				○			○				34.0	0.0
2(3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる		4(5) 7(7)				○			○				75.5	0.0
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる		5(3) 7(7) ※				○				○			22.6	3.8
3(1)	0.4+0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) 7(7) 7(7)					○			○				71.7	0.0
3(2)	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(5) 7(7) 4(7)					○				○			15.1	32.1
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) 7(7) 7(7)					○			○				22.6	11.3
3(4)	1/2+1/3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(5) 7(7)					○			○				75.5	3.8
4(1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3(4) 7(7)			4(1) 7(7)	5(2) 7(7)	○			○				81.1	3.8
4(2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) 7(7)		3(1) 7(7)	4(1) 7(7)	5(2) 7(7)	○				○			43.4	7.5
4(3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) 7(7)			○			○				58.5	5.7
4(4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる				5(3) 7(7)		○			○				20.8	13.2

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。
 ※ただし、4月17日に調査を実施していない学校については、4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

集計結果

対象児童数	東松山市立松山第二小学校
	53

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			松山第二小学校	
全体			17	55
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	39.2
		「粒子」を柱とする領域	6	51.3
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	51.4
		「地球」を柱とする領域	6	65.4
評価の観点	知識・技能		8	50.5
	思考・判断・表現		9	58.3
	主体的に学習に取り組む態度		0	
問題形式	選択式		11	52.3
	短答式		4	68.4
	記述式		2	39.6

(注) 「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域			評価の観点			問題形式			松山第二小学校	
			A区分	B区分		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域								
1 (1)	赤土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			4B (3)ア (イ)※	○			○			77.4	0.0
1 (2)	赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる			4B (3)ア (イ)※	○			○			41.5	11.3
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる			4B (3)ア (イ)※	○			○			88.7	3.8
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3A (5)ア (イ)	3A (4)ア (ア)		○			○			7.5	0.0
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3A (5)ア (ア)※ (イ)※			○			○			39.6	0.0
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5A (3)ア (イ)			○			○			83.0	0.0
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4A (3)ア (ア)			○			○			26.4	0.0
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる		5B (1)ア (エ)		○			○			58.5	0.0
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる		5B (1)ア		○			○			43.4	0.0
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる		5B (1)ア (イ)※		○			○			66.0	0.0
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる		5B (1)イ		○			○			37.7	11.3
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	4A (2)ア (イ)※			○			○			54.7	9.4
4 (2)	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4A (2)ア (ウ)	4B (4)ア (イ)		○			○			69.8	0.0
4 (2)	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4A (2)ア (ウ)	4B (4)ア (イ)		○			○			56.6	0.0
4 (3)	海にある氷がとけることについて、氷が氷になる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	氷が氷になる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4A (2)ア (ウ)※			○			○			52.8	3.8
4 (3)	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水が陸から海へ流れていくことについて、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる		4B (3)ア (ア)		○			○			58.5	5.7
4 (3)	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4A (2)ア (ア)※			○			○			66.0	5.7

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を見るために用いる知識及び技能を示している。